

I 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。解答番号は、

1

〜

20

。

私たちの社会は「人間」について一定の価値観を積み重ねてきており、それに基づいて法や社会制度が形成されている。

A、そうした現行のシステムと大きく<sup>1</sup>シオウトツする技術が登場した際には、伝統的価値観と新たな技術との間で擦り合わせが<sup>2</sup>つねに生じるのである。人工授精や臓器イシヨク、脳死など、そうした擦り合わせが行われてきた例は少なくない。

人工知能を用いた知的な成果物の作成の場合でも同様の問題が生じるだろう。たとえば、『クラークスワールド・マガジン (Clarkesworld Magazine)』は、ヒューゴ賞受賞作品などを掲載してきた米国の A <sup>(注1)</sup>なSF雑誌だが、最近になって、人工知能によって作成されたSF作品が大量に投稿されるようになり、投稿の受付を停止するに至ったという (Forbes JAPAN 編集部, 2023)。その理由は、「スパム作品」の投稿があまりに多くなり、投稿された作品が人の手によるものなのか人工知能の産物なのかを編集者が判別できなくなったためである。

B、米国著作権局は2023年2月21日付けの文書で、画像生成型人工知能を使って生成したイラストを使用して作られた漫画『Zarya of The Dawn (夜明けのザーリヤ)』について、文章とイラストの配置については著作権保護の対象となるものの、イラストそのものについては著作権保護の対象とは認められないとの結論を下した (Brittain, 2023)。その理由は、それらのイラストは「人間によって生み出されたものではない (are not the product of human authorship)」からということである。記事によれば、これは I を米国の公式機関が判断した最初のケースの1つである。

こうしたさまざまな現実の問題を引き起こしながら、人工知能技術の知的な場面での使用は社会に埋め込まれていく。 C、そうした人工知能社会で求められる徳とはどういったものであろうか。

1つは人工知能に飲み込まれて「使われ」てしまうのではなく、それぞれの人工知能の利点と限界を把握しながらうまく「使う」側であり続けるための知的な徳であろう。ペンシルベニア大学ウォートン校のイーサン・モリック准教授は、担当するすべての授業で ChatGPT <sup>(注2)</sup>を利用することを認めている (Mollick, 2023)。彼によれば、ChatGPTの吐き出した結果をただ「コピー」する

だけの学生は質の高い文章を生成できていないという。人工知能に優れた文章を吐かせるのは簡単なことではなく、問題となっている **I** に関する専門的な知識とスキルの両方が、使用者側には求められる。そうした使用者側のタクエツ性を土台にして、人工知能に出す指示の仕方を工夫することにより、より質の高い結果を吐き出させることができるのである。ここでは、人工知能とそれを使う側の間に **II** が成り立っている。

モリツクが実践しているのは、人工知能に関する基礎知識や現状についてのリテラシーを身につけることで、間違った認識や無知に基づいた根拠のない信頼や不安を取り除き、主体的に人工知能を使うことである。人工知能のこうした使用により有意義な知的成果を挙げられるのであれば、そうした使用を可能とする態度は、知的徳と云えるだろう。この知的徳に名前をつけるとすれば、「人工知能リテラシー」が最も適切だろう。人工知能リテラシーという知的徳は、複数の徳からなる徳のセットの名前である。ここには、たとえば新しい人工知能に対峙した際にハッキされる「知的に開かれた心」や、一見したところ有意義で有意義な結果を吐き出しても安易にそれに飛びつかずに、人工知能が生成した文章をあらためて **ウ** する「知的な慎重さ」など、徳認識論で議論されてきた知的な徳のうちのいくつかが含まれることになる。また、作成された人工知能の当初の使い方ではないが、有意義な使い方を見つけ出し独自に活用する「創造性」あるいは「発想力」なども含めることができるだろう。この一連の徳からなる人工知能リテラシーがあることで、新たな人工知能が登場しても、それに対して適切な態度で向き合い有効に活用することができるのである。

道徳的な徳についてもさまざまな擦り合わせが生じることになるだろう。そうした激動の変化の中で、人工知能社会ならではの徳が登場すると考えられる。それを「死の自覚」と呼ぶことにしよう。この徳の意義を考えるために、人工知能がもつさまざまな特徴のうち、次の3つに注目するのがよい。 **D**、(1)さまざまなアプリなどを通じて多くのゴラクや暇潰しを提供してくれる。また、(2)ほかの機械と同様に、人工知能も作業の繰り返しに倦むことがない。そして、(3)それが搭載されたデバイスにその本質があるわけではなく、データやアルゴリズムにその本質があるため、別のデバイスにコピーすることにより半永久的に存在し続けること、それゆえ改善し続けることができる。こうした3つの特性を活かして、人工知能を搭載したロボット

を傍らに置いておくことで、「愛」のある関係が作れるかもしれないと考えられている(高橋, 2022)。このロボットは、自分の傍らにいて自分をいつも見守ってくれるし、話しかければいつでも自分の話を聞いて相槌あいつちをうつってくれる。機械の調子が悪くなれば新品のものにデータを移せばよいので、自分が生きている限り使い続けられる。こうした人工知能ロボットは、終わることのない「愛」を自分に傾けてくれる人工物である。

こうした「愛」のある人工知能ロボットは、複雑な人間関係に疲れ果ててしまった人たちを癒いやすす存在として意義をもつかもされない。実際、私たち人間というものは、(1)基本的に忙しいし、いつも相手を楽しませられるわけではなく、(2)同じことの繰り返しをさせられると飽きてくるし、イライラもしてくるし、(3)限られた期間しか生きることのできない生物だからである。私たちは、いまのところ、自分の存在を別の存在にコピーすることはできないし、この身体を半永久的に使うこともできない。つまり、私たちにも成長はあるが老化もあり、そして何よりも死という終わりがある。そんな限られた存在の私たち人間が、他人に不寛容になったり我欲を追求したりしてしまうのは、そしてその結果として他人とうまくいかなくなってしまふのは、仕方のないことだと言える。

半永久的に生きていく(ように見える)人工知能との関わりの中で、私たちは自分たちが生物として有限であることを自覚するようになる。<sup>B</sup>「死の自覚」というこの自覚は、2つの点で私たちの生き方を支える1つの徳となる。

第一に、自分が死ぬ存在であると自覚しながら生きることである。この自覚は、人工知能社会において人間という存在の倫理的なあり方を考える上で決定的に重要である。アンディ・クラークは、人間は「生まれながらのサイボーグ」である(注4)と述べ、科学技術の発達によって人間の身体的な能力や認知的な能力のあり方は変化し、さらにさまざまな人工物との接合によって自己概念さえも変容する存在であるとした(クラーク, 2015)。たしかに人間をそうしたサイボーグとして捉えることは可能であろう。しかし、私たちの心がどれほど拡張されようとも、人工物とのサイバネティックな融合を果たして半永久的に存在するのでもない限り、やはりその心の主である人間は死から逃れられない。限られた時間しか存在することができないという「死の自覚」は、「この生」をどのように生きるのかという「生の自覚」と エ の関係にある。生と死を自覚して自分の人生を大事に過ごして

いく「死の自覚」は、人工知能が広がり人間の人間らしさがあやふやになっていく社会でこそ際立つ、人間としての倫理的な「生」のあり方だと言える。

第二に、他人もまた死ぬ存在であるという自覚である。映画『ブレードランナー』では人間とアンドロイドの見分けがつかないという世界が描かれているが、そうした状況が到来するまでは、私たちは自分が関係を築く相手が人間なのか人工知能搭載ロボットなのかを知ることができよう。このとき、自分の傍で寄り添ってくれて、自分の愚痴を飽きずに聞いてくれるなら、それが人間であれロボットであれ「愛」を感じるのかもしれない。しかし、両者の愛には決定的な違いがある。それは、ロボットとは異なり、寄り添ってくれる人は有限の存在だということである。飽きもすればイライラもするし、自分がしたいこともあり、そしていずれ死んでしまう一度きりの人生を生きている。そうした人間が、人生の一定の時間を割いて、自分の傍に寄り添ってくれている。ここに、人工知能とともに生きることとは本質的に異なる、人間と「生きる」ということがある。そして、私たちの「生」は、そうした「愛」で囲まれている。親子の育児、親友の友情、恋人の恋、夫婦やパートナーの愛、介護のケアなど、いろいろとしなくてはいけないことがあるのに、そしてその人の人生は限られているのに、自分を気遣い文句も言わず隣で時を過ごしてくれているとき、その人は オ 人生を自分に割いてくれているのである。

人工知能社会が到来し人工知能とさまざまに関わっていくことで、私たちは自分たちが有限の人間であるという「死の自覚」を育む必要がある。死の自覚という徳を備えることにより、私たちは自分の生き方をより豊かにすることができるが、この徳もまた複数の徳からなる徳のセットであると考えることができる。たとえば、自分の人生をもっと真面目に考えるという「誠実さ」、限りある時間を大事にする「節制」、愛を注いでくれる他人に対する「感謝」、他人の生への「慈愛」など、徳倫理学が重視してきた道徳的な徳のいくつかが含まれることになるだろう。

(立花幸司「人工知能と人間らしさ」(『人工知能とどうつきあうか』所収)より)

(注2) ChatGPT——人工知能を使った対話形式のサービス。さまざまな質問に対して、解答を生成することができる。

(注3) アルゴリズム——課題解決のための計算手順や処理手順。

(注4) サイボーグ——生命体と自動制御系の技術を融合させたもの。

(注5) サイバネティクス——人間と機械の相互関係。

(注6) アンドロイド——人工人間。

問1 ———線1～5を漢字で書いたときに用いる字として最も適当なものを、次の各群の①～⑥のうちから、それぞれ一

つずつ選びなさい。解答番号は、1  2  3  4  5 。

- |   |       |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | シヨウトツ | ① | 章 | ② | 省 | ③ | 称 | ④ | 衝 | ⑤ | 証 | ⑥ | 祥 |
| 2 | イシヨク  | ① | 食 | ② | 植 | ③ | 色 | ④ | 触 | ⑤ | 飾 | ⑥ | 職 |
| 3 | タクエツ  | ① | 宅 | ② | 沢 | ③ | 拓 | ④ | 卓 | ⑤ | 択 | ⑥ | 託 |
| 4 | ハッキ   | ① | 揮 | ② | 輝 | ③ | 起 | ④ | 貴 | ⑤ | 期 | ⑥ | 希 |
| 5 | ゴラク   | ① | 呉 | ② | 娛 | ③ | 誤 | ④ | 御 | ⑤ | 互 | ⑥ | 語 |

問2   に入る語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

い。ただし、同じ番号を二回以上用いてはならない。もし用いた場合は、同じ番号の解答をすべて誤答とする。

解答番号は、A  B  C  D 。

- ① まず
- ② しかし
- ③ それゆえに
- ④ では
- ⑤ また

問3

ア

オ

なさい。解答番号は、ア 10 イ 11 ウ 12 エ 13 オ 14。

に入る語句として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選び

ア ① 匿名 ② 署名 ③ 署名 ④ 襲名 ⑤ 指名

イ ① コンセンサス ② アポイントメント ③ トピック

④ アサイン ⑤ エポック

ウ ① 虚脱 ② 是正 ③ 采配 ④ 吟味 ⑤ 賞賛

エ ① 表裏一体 ② 二律背反 ③ 一蓮托生 いちれんたくしょう ④ 一長一短 ⑤ 二者択一

オ ① かけがえのない ② まぎれもない ③ やるかたない

④ いけすかない ⑤ にべもない

問4

I

に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

15。

① 生成されたイラストが画像生成型人工知能によって作成されたものかどうか

② 人が描いた作品が人工知能によって生成された「作品」よりも優れているかどうか

③ 人工知能が描いた漫画の著作権は、人工知能の開発者に帰属するかどうか

④ 人間の書いた文章と人工知能が生成した「作品」を組み合わせることができるかどうか

⑤ 人工知能によって生成された「作品」が著作権保護対象になるかどうか

問5

II

に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

16

① 因果関係

② 並立関係

③ 敵対関係

④ 協働関係

⑤ 依存関係

問6

——線 A 『愛』のある人工知能ロボット」とあるが、この「人工知能ロボット」の説明として最も適当なものを、次の

①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

17

① 半永久的に生きていくように見える存在であるため、愛情の大きさも人間の愛情を上回るように思わせてくれる。

② 人間よりも長らえて、いつでも何度でも自分の傍で話を聞いてくれることで、愛情を感じさせてくれる。

③ 人間とうまくいかなくなってしまうことがあるが、それを乗り越えることで強い愛情が生まれることがある。

④ 有限の存在であるため、その限られた時間を人間のためにひたむきに使おうとする強い愛情を有している。

⑤ 人間に愛情を傾けてくれるが、人間は人工知能に愛情を感じないため、一方的な愛情にとどまってしまう。

問7 — 線B「『死の自覚』」とあるが、これに関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

い。解答番号は、18。

- ① 「死の自覚」は人工知能社会ならではの徳であり、アンディ・クラークは、「生まれながらのサイボーグ」である人間が変容していくことを妨げるものとして、「死の自覚」を挙げている。
- ② 複雑な人間関係に疲れ果ててしまった人たちを癒す存在として、人工知能の「愛」は有意義であり、その「愛」をより豊かなものに昇華させるのが「死の自覚」である。
- ③ 「死の自覚」は、自分が死ぬ存在であると自覚しながら生きることと、人工知能は半永久的に生きることができると理解することという二つの点で、私たちの生き方を支える徳となる。
- ④ 「死の自覚」は、自分も他人もいつかは死ぬ有限の存在であるという自覚をもたらし、その「死の自覚」を育んでいくことで、私たちはより豊かな生き方を手にすることができる。
- ⑤ 人間は、「死の自覚」によって他人が死ぬ存在であると自覚することにより、飽きやイライラを感じてしまう人間の心が有限の存在であると理解し、その心を許すことができる。

問8 本文の内容と合致するものを、次の①～⑥のうちから二つ選びなさい。ただし、解答の順序は問わない。

解答番号は、

19

20

。

① 米国の『クラークスワールド・マガジン』というSF雑誌には、人工知能によるSF作品が投稿されるようになったが、人による作品と人工知能の産物を判別できなくなったため、投稿の受付を停止した。

② イーサン・モリック准教授は、学生が人工知能を使いこなして質の高い文章を生成することは不可能であるという考えから、担当するすべての授業で学生がChatGPTを使うことを認めている。

③ 人工知能の生成した文章を精査する「知的な慎重さ」や、人工知能の有意義な使い方を見だし独自に活用する「創造性」や「発想力」などは知的徳であり、「人工知能リテラシー」と名付けるのが適切である。

④ 有限で不完全な存在である人間の「愛」と比較して、半永久的に存在し続けることができる人工知能による「愛」が優れている点は多く、人間と人工知能は、「愛」のある関係を築くことができる可能性がある。

⑤ 人間は人工知能との関わりを通して「死の自覚」という徳を備えることで、イライラしたり我欲を追求したりすることがなくなり、人工知能のように終わることのない「愛」を手に入れることができる。

⑥ 「死の自覚」は人工知能がもつ徳であるが、これまで徳倫理学に重視されてきた「誠実さ」「節制」「感謝」「慈愛」などの重要な徳のいくつかが含まれており、徳のセットとして重視されている。

II 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。解答番号は、

21

5

40

。

自撮りが、家族アルバムに収集されるそれまでの記念写真と異なる点は、その多くがインスタグラムやフェイスブックなどのいわゆるソーシャルメディアに公開することを目的に撮られていることだ。つまり、自撮りは個人的な写真行為と言うよりも、むしろ社会的な写真行為なのであり、コミュニケーション活動に **ア** 写真実践なのである。

**A**、その行為を可能としたのは、インターネットやデジタル写真の大規模なフキユウ<sup>1</sup>であることは言うまでもない。インターネット時代の写真行為は、記念や記録のためというよりも、むしろ誰かに見せて、「いいね！」の承認を得るためにあるのだ。

そのため、自撮りには、不特定多数の閲覧者に対して「私をみてくれ」と語りかけ、「私の生活にはこんな側面もある」と **イ** 表現が数多くあらわれる。他者の閲覧が想定されているからこそ、自撮りには自己顕示欲<sup>2</sup>にあふれた写真がサンケンされるのである。

しかしながら、自撮りは自己愛的な表現のように思われるものの、その関心は必ずしも自分自身だけに向けられるものではない。自撮りの動機を支えているのは、ネットワークの中で疑似的な社会関係を結びたいというコミュニケーションへの欲求である。それは生身の身体を晒すリアルな経験<sup>3</sup>としてではなく、イメージを媒介とした間接的かつ視覚偏重の関係コウチク<sup>3</sup>が求められているのだ。

ユニークな写真行為である自撮りには、「受容されるイメージ」を先取りして表現しようとする傾向が顕著にあらわれる。

**B**、あらかじめ他者が「見たいと思われる画像」へと修正を施し、「完璧なイメージ」に仕上げて呈示しようとするのである。要するに自撮りの画像は、**I** ではなく、閲覧者がそうあって欲しいというイメージを先取りして、それに合わせて図説的に表現する行為だと言うことができる。

他者による閲覧を前提とした自撮りの独特な振る舞いは、自撮りの画像の定型化を促す要因にもなっている。画像をアップす

る者は、「いいねー」など、その価値に見合った賛辞を得たいがために、賞賛されやすい画像、あるいはすでに賞賛されている画像をモホウ<sup>4</sup>しようとする。すでに賞賛されている画像とは、よくできた「既知のイメージ」のことだ。その代表はたとえば、たとえば、どこかで見たことのあるイメージ（アイドル、女優、モデル）、あるいは美しい広告写真のイメージである。

こうしたことから、自撮りが、秘匿的な個人の回想、記録であるとは単純に言い切れない。行為において個人的であるが、動機においては社会的なのである。それはインターネットを通じて他者に見せること／見られることを想定した行為であり、承認を求めるコミュニケーション行為と理解すべきだろう。私たちは自撮りの写真をソーシャルメディアにアップすることで、理想的な類似像を提示して、共通の話題としてしているのである。

このことは、「インスタ映え」の流行語を生んだインスタグラムの画像に関しても

**ウ** 特徴となつてあらわれている。た

とえばユーザーは、高級なフレンチレストランの料理の写真を撮ったり、リゾートホテルの洒落たインテリアを背景にしてポートレイトを撮ったりする。以前なら、そうしたスナップ写真は、アマチュアの撮影したものとプロの撮影した雑誌写真や広告写真とは、明らかに違ったテイストで表現されていた。前者は、出来事としてのリアリティが重視され、後者は理想としてのファンタジーが重視されている。しかし、インスタグラムにアップされた料理写真やポートレイトには、広告写真と見間違ふようなものが無数にあるのだ。アプリの画面を開けば、雑誌広告で見たような整った写真が連続し、オシャレな雰囲気を出している。**C**、奇妙なほど、どれも **エ** ようなよく似たテイストに仕上がっているのだ。

インスタグラムにアップされる写真は、出来事を記録するというよりも、むしろ出来事を「デザイン」した演出写真である。だから、レストランのテーブルの上に気に入らないものが映り込む時はそれを排除したり、皿を並べ直したりして、「レイアウト」を変えることが積極的に行われる。

なかには、料理をより魅力的に見せるために自前のランチョンマットを持参したりするインスタグラマーもいる。若い女性の間で流行した「ナイトプール」では、インスタ映えの写真を撮るために、わざわざ貝やスイカの形をした浮き輪を撮影の小道具として持参したりする強者<sup>つわもの</sup>もいる。そして、最後の仕上げとして、アプリで画像加工を施して、平凡なイメージを「特別な日常」

へ、広告写真のような「完璧なイメージ」へと変容させるのである。

メディア理論家のレフ・マノビッチは、インスタグラムの写真には、明らかに他の写真とは異なる「視覚的美学」があると指摘している。「インスタグラムによって加工された写真は、単なるコンテンツではなく、技術、スタイル、視覚的な選択を通じてコミュニケーションするために作成されたビジュアルイメージである」(マノヴィッチ 2018: 49)と彼は述べている。

確かに、インスタグラムの美しい光景の表現には、自撮りと同じような **II** を垣間見ることができ(注2)る。インスタグラムの写真実践では、ユーザーは光景の観察者ではなく、光景を理想化して作りだす表現者なのである。

インスタグラムはまたキョウシユウ<sup>5</sup>を偽装することも得意だ。そもそも写真は、物質として表象する限りにおいて、その支持体の劣化が時間経過の証として理解されている。過ぎてしまった時刻に私たちは戻ることができないが、支持体の劣化や画像の退色は、経過した時間を表徴する。だからアプリで、セピア色に変色させたり、白っぽく退色させたりすれば、途端に画像にはノスタルジックな雰囲気が醸し出されるのだ。このようにしてユーザーは雑誌やウェブで見たことのあるような「よく出来たイメージ」、すなわち「インスタ映え」を完成させる。

既知のイメージに現実の風景を重ね合わせようとするインスタグラムの写真には、スナップショットのように出来事に立ち会わせる記録性は重要ではない。それは「決定的瞬間」ではなく、自らが創造した「理想の光景」なのであり、同時に人に見せるために提示された **III** なのである。

その為、多くのインスタグラムの指南書では、いいね！を増やす方法として、写真を一覧させて「写真集」のようにみせるべきだと提案している。たとえば、『「暮らし」を撮る大人のインスタグラム』では、「自分のプロフィール画面には、投稿した写真が、縦3列に並びます。写真集のように見られるのもインスタの特徴です。1枚1枚の写真をきれいに撮影することも重要ですが、統一したテーマで撮影したり、色を統一したり、撮影する対象を決めたり、「寄り」や「引き」のバランスを大切にしたりして……といったことを意識することで、プロフィール画面の一覧がギャラリーになりつつもおしゃれ。ほかのユーザーの目をひくはずですよ。」とある(ORANGE PAGE MOOK 2016: 86)。

インスタグラムは、いつけん新奇なモノや出来事を報告しているようにみえるが、D、イメージのインフレーションの中から選択されたものを反復しているのである。いわば、集合的記憶の中から選り取られたイメージを、丁寧に再現したのがインスタグラムなのである。

インスタグラムの写真に、ある種の既視感が感覚されるのはそのためだ。奇妙な言い方かもしれないが、撮影されるのは新しい風景ではなく、ノスタルジックな風景の複製なのである。報道写真が私たちを出来事の瞬間に私たちを立ち会わせようとするのに対して、インスタグラムの写真は、私たちを記憶の中へと送りかえしていくのだ。

(馬場伸彦「自撮りと私——キャラ化したコミュニケーション——」(『奥行きをなくした顔の時代』所収)より)

(注1) インスタグラムやフェイスブック——ともにソーシャルネットワークワーキングサービス(SNS)の一つ。

(注2) 支持体——ここでは、写真が印刷された紙のこと。

問1 — 線1～5を漢字で書いたときに用いる字として最も適当なものを、次の各群の①～⑥のうちから、それぞれ一

- |        |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| つずつ    | つ | つ | つ | つ | つ | つ | つ | つ | つ |
| 選ぶ     | 選 | 選 | 選 | 選 | 選 | 選 | 選 | 選 | 選 |
| なさい    | な | な | な | な | な | な | な | な | な |
| 解答番号は、 | 解 | 解 | 解 | 解 | 解 | 解 | 解 | 解 | 解 |
| 1      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| フ      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| キュウ    | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| 1      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| フ      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| ケン     | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| 2      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| サ      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| ケン     | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| 3      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| コ      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| ウ      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| チ      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| ク      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| 4      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| モ      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| ホ      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| ウ      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| 5      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| キ      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| ョ      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| ウ      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| シ      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| ユ      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |
| ウ      | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ | フ |

問2 ―線 A「家族アルバムに収集されるそれまでの記念写真」とあるが、それにはどのような特徴があるか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

26。

- ① 出来事の記録、個人的な回想に重きを置いていて、リアリティが重視されること。
- ② 個人的な写真行為であり、リアリティよりも記憶を惹起しやうきすることが重視されること。
- ③ 後で回想することが目的であり、ノスタルジーを反復的に再現したものであること。
- ④ 他人に見せず秘匿することが目的であり、理想を表現することが求められること。
- ⑤ ありありと思い出させる現実味があり、既存のイメージを打破するものであること。

問3

ア

エ

に入る語句として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、ア 27 イ 28 ウ 29 エ 30。

- |   |                          |          |                              |          |          |
|---|--------------------------|----------|------------------------------|----------|----------|
| ア | ① 手をこまねいた                | ② 食指が動いた | ③ 主眼 <small>あつら</small> を置いた | ④ 総毛だった  | ⑤ 足跡を残した |
| イ | ① 灰 <small>ほ</small> めかす | ② そそのかす  | ③ 誂 <small>あつら</small> える    | ④ 脅かす    | ⑤ けしかける  |
| ウ | ① おびただしい                 | ② まめまめしい | ③ 恭しい                        | ④ 煩わしい   | ⑤ 著しい    |
| エ | ① 足を洗った                  | ② 判で押した  | ③ 襟を正した                      | ④ さじを投げた | ⑤ 堂に入った  |

問4

A

D

に入る語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。ただし、同じ番号を二回以上用いてはならない。もし用いた場合は、同じ番号の解答をすべて誤答とする。

解答番号は、A

31

B

32

C

33

D

34

- ① 実は
- ② もちろん
- ③ つまり
- ④ しかも
- ⑤ なまじ

問5

I

に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

35

① ファンタジーとしての風景

② コミュニケーション

③ 視覚的なイメージ

④ あるがままの姿

⑤ 理想像の真似まね

問6

——線B「出来事を『デザイン』した演出写真」とあるが、「出来事を『デザイン』するのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

36

① 閲覧者が望むイメージよりも、自己の表現したい独創的なイメージを作り上げる必要があるから。

② 疑似的な社会関係を結ぶためには、現実味をなるべくなくして珍しいイメージを作る必要があるから。

③ 他者に見せて承認を得るためには、一般的に賞賛されやすい状態を再現して提示する必要があるから。

④ 話題を提示して他者とコミュニケーションをとるためには、日常的な風景を示す必要があるから。

⑤ 自撮りとは異なり、まるでプロが撮った写真のような完璧な雰囲気を作り上げる必要があるから。

問7

II

に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

37

① 関係性への憧れ

② 自己表現への欲求

③ 視覚への信頼

④ 技術向上への野心

⑤ 自己愛的な精神

問8

III

に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

38

① 自己顕示欲の発露

② ノスタルジックな「私」

③ 知られざる私の過去

④ オシャレな私の「世界観」

⑤ イメージを超えた理想像

問9 — 線C「集合的記憶の中から選び取られたイメージを、丁寧に再現したのがインスタグラムなのである」とあるが、こ

れはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号は、39。

- ① インスタグラムに投稿される写真は、ノスタルジーを偽装してはいるものの、実際は撮影者の個性を映し出した新しいイメージだということ。
- ② インスタグラムの写真は、多くの人が賞賛したノスタルジックな光景に、撮影者の理想を重ね合わせ新奇なイメージにしたものだということ。
- ③ インスタグラムに投稿される写真は、なにげない日常を演出・加工したうえで撮影した、理想の光景に見える決定的な瞬間であるということ。
- ④ インスタグラムの写真は、自撮りのように個人の回想のために撮影されたものではなく、閲覧者が見たいと思うイメージを先取りしたものだということ。
- ⑤ インスタグラムに投稿される写真は、新奇な光景ではなく、多くの人が見たことがあるノスタルジックで理想的な光景を複製したものだということ。

問10 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

40。

① 自撮りという行為は、受容されるイメージをあらかじめ表現しようという傾向が見られる点が、インスタグラムとは異なりユニークである。

② インターネットやデジタル写真が発達した現在、見られることを意識した写真を撮ることが一般的で、記念や記録のために写真を撮ろうという人は少なくなってしまった。

③ 自撮りもインスタグラムに投稿される写真も、疑似的な社会関係の中で承認されたいという欲求をもとにしているために、賞賛されやすいイメージの反復になって定型化している。

④ インスタグラムの写真は、既知のイメージの複製とはいえ、単なるコンテンツとはいえない美学があるために独自の発展が見込めるものである。

⑤ 自撮りやインスタグラムにおける写真は、歴史的に独特の文化であるとはいえ、常に既視感のあるもので新規性に欠けるために、そこから芸術的に価値のある写真は生まれ得ない。